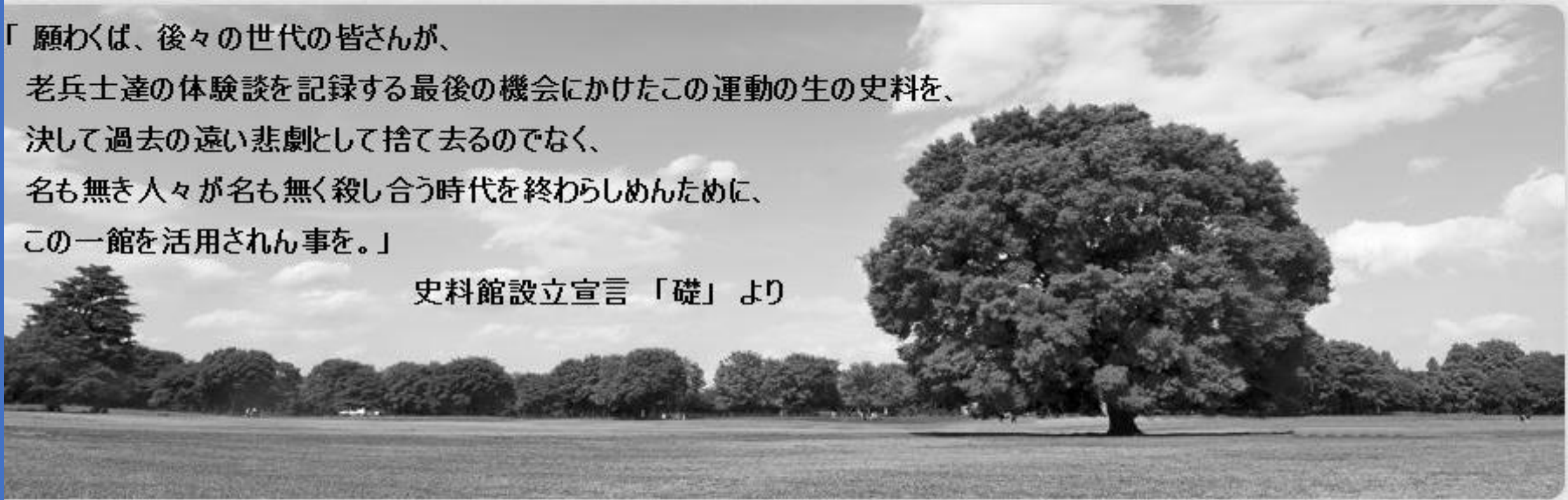


「願わくば、後々の世代の皆さんが、  
老兵士達の体験談を記録する最後の機会にかけたこの運動の生の史料を、  
決して過去の遠い悲劇として捨て去るのではなく、  
名も無き人々が名も無く殺し合う時代を終わらしめんために、  
この一館を活用されん事を。」

史料館設立宣言「礎」より



## 証言映像で見る ボカチン特集

---

# ボカチンとは？

輸送船の船員、南方に移動する陸軍兵士の体験者からよく聞くキーワードで「ボカチン」があります。聞き取り初期は、何のことかよくわからなかった言葉の一つです。

その意味は、「(魚雷を)ボカンと食らって(艦が)沈没」の略称です。実は、飢餓の話、武器が十分でない話、戦場体験の悲惨な話の遠因ともいえる事象です。また、日本と米国の考え方の差がわかる象徴的な話でもあります。

ボカチンというキーワードを軸に、あの先の大戦の実情を皆さんと共有したいと思います。

# 太平洋戦場地図



# ボカチンの体験者



西山 勇さん

軍属船員 トラック島沖  
で被弾



斎藤 元雄さん

陸軍 ダンピール海峡の  
悲劇を語る。ご自身も輸  
送中に2度沈没



小野 一臣さん

陸軍 バシー海峡で沈む



片岡 茂太郎さん

陸軍 軍医 病院船ぶえ  
のすあいれす丸の沈没



矢野 正美 さん

陸軍 戦車部隊もバシー  
海峡で沈んで丸裸に



久我 吉男さん

軍属船員 輸送船で2度の  
沈没を経験



原岡 勇さん

陸軍 鯨詰めの輸送船内  
の様子



# 日米のロジスティクス（兵站）に関する違い

## 日本

日本は、艦隊決戦を重視し、開戦時輸送船を護衛する海防艦は僅か4隻という、無きに等しい実態でした。このような中で、陸海軍の作戦行動に参加した徴用船は海軍の艦船によって護衛されましたが、資源の輸送に当たった輸送船は護衛のない単独輸送を強いられます。その後、輸送は船団方式を取り入れ、護衛船を付けることにします、護衛船は緊急建造の海防艦か水雷艇程度で、これは米国潜水艦の敵ではなかったのです。

- 「輜重輸卒（しちょうゆそつ）ガ兵隊ナラバ 蝶々トンボモ鳥ノウチ」とロジスティクス軽視。
- 戦没者の60%は「餓死」。十分な武器、弾薬、食料も提供されずに損耗した。

## ロジスティクスとは？

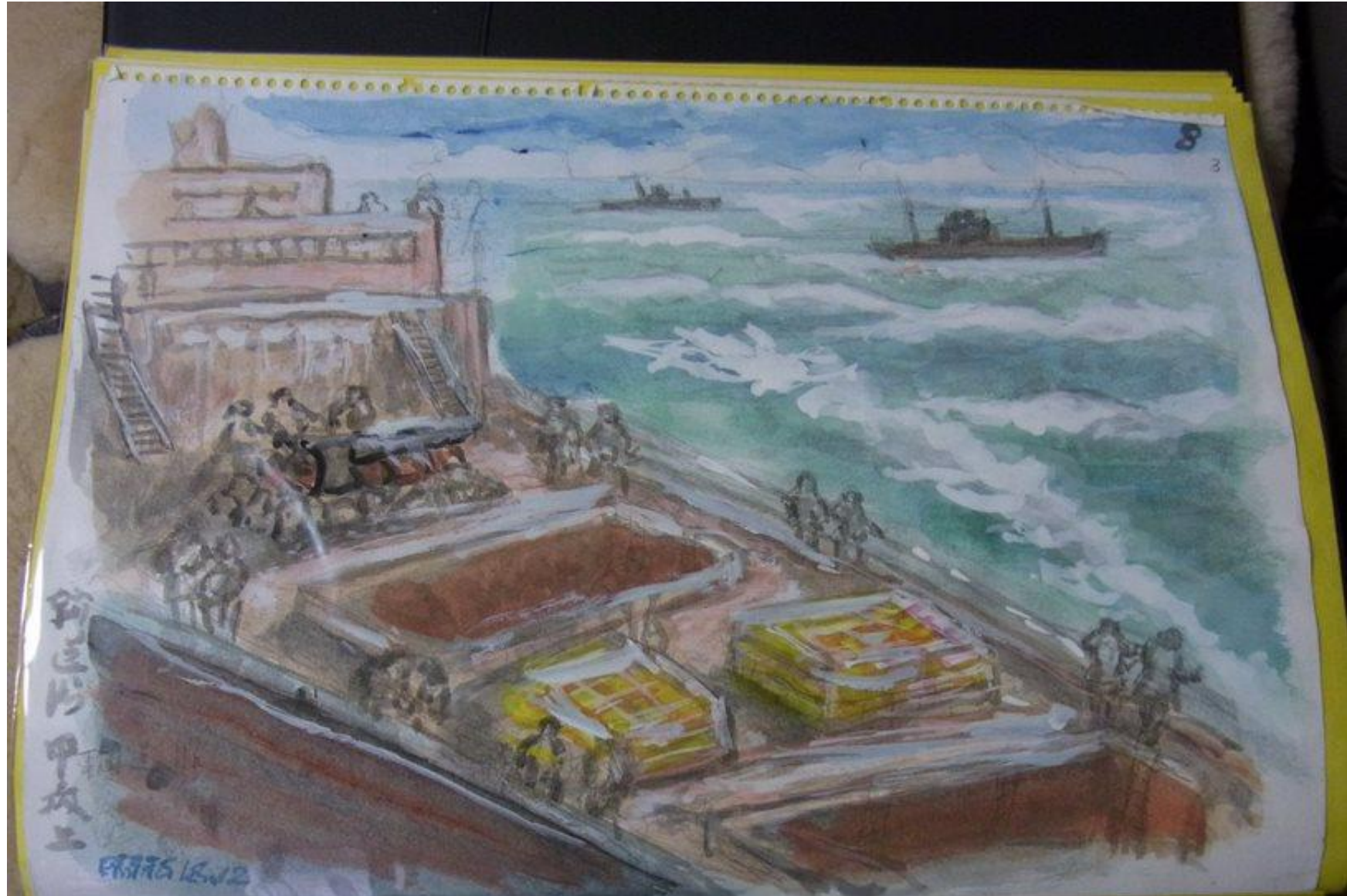
「必要なものを」  
「必要な時に」  
「必要な量を」  
「必要な場所に」  
提供すること

## アメリカ

米国は開戦に備え、自国輸送船団護衛のために巡洋艦、駆逐艦、空母などからなる約200隻を超える艦船を準備していました。また、日本商船攻撃のための潜水艦も備え、真珠湾奇襲攻撃の3時間後には、51隻の潜水艦を西太平洋全域に配備し、民間商船も総べて攻撃の対象とする「無制限潜水艦作戦」の実施を大統領は命令しています。なお、これ等潜水艦はその後200隻に増え、西南太平洋全域で思うままにわが国商船や漁船、機帆船を攻撃し撃沈しています。

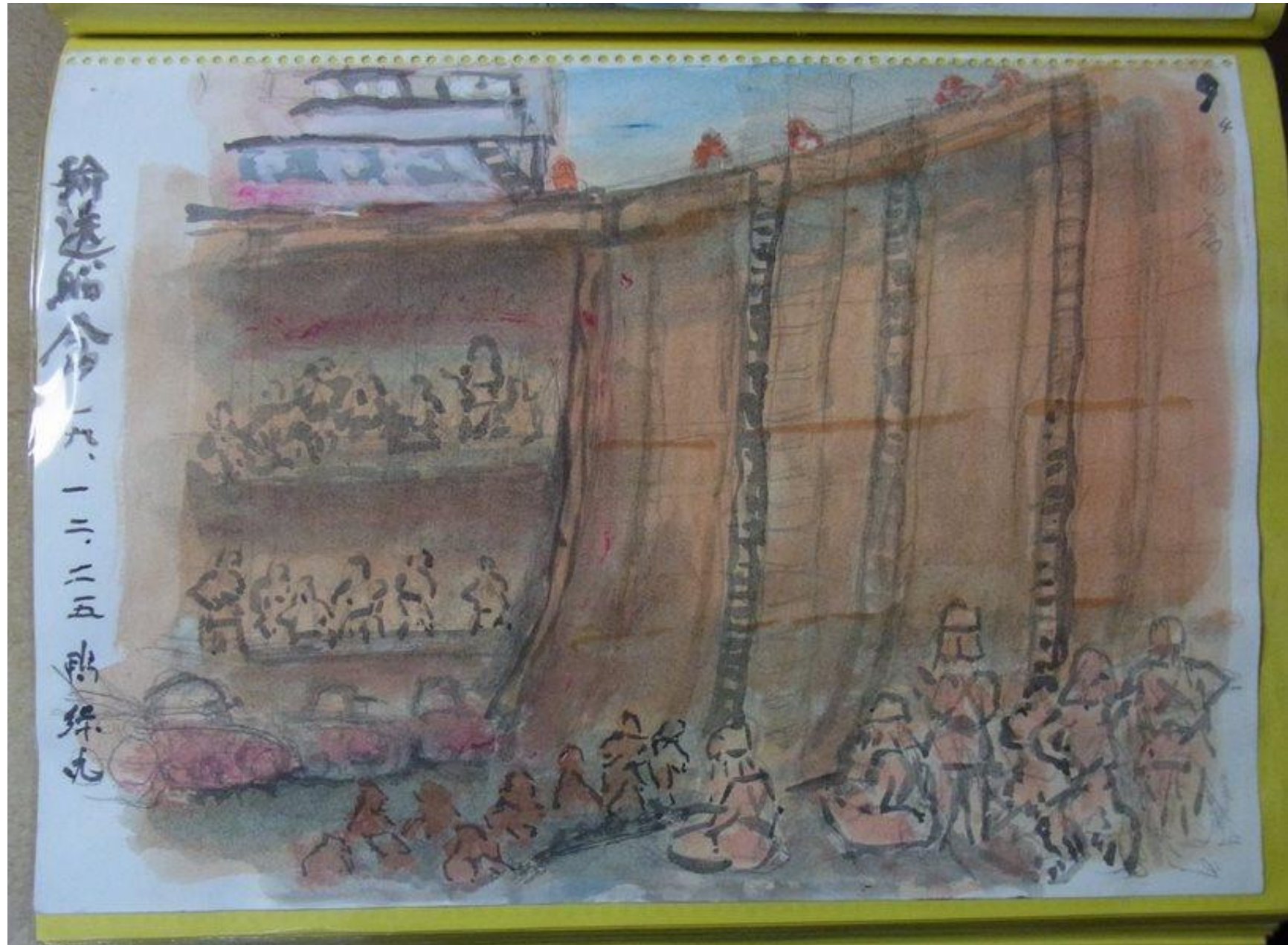
- 「プロはロジスティクスを語り、アマチュアは戦闘を語る」でロジスティクスを最重要視。
- ほとんどの戦域で、圧倒的な火力と物量で戦闘を実施。

# 輸送船の様子





# 輸送船の様子



# 詰め詰めの船の様子 3分10秒





# 通商破壊

通商破壊とは、戦時に、通商物資や人を乗せた商船を攻撃することによって、海運による物資の輸送を妨害することです。

もともと南方資源獲得のために開戦した日本軍でしたが、「大動脈」である輸送船を沈められ資源を運ぶことも、戦地に兵員・物資を運ぶことも自由にできなくなってしまいました。体験者が「ボカチン」と呼ぶ現象は、悲惨な飢餓体験、装備不足の体験を多数輩出することとなりました。

## 南方資源

マレー侵攻をはじめとする南方作戦の主目的が資源獲得が目的でした。この後行われた1942年2月の空挺部隊「空の神兵」で有名パラバンも油田確保が目的でした。

木村さんの体験は、陸軍南方燃料廠経理部員として、石油資源の確保、日本国内、各地戦地に精製した石油をタンカーに積み、郵送して前線を支えました。

まさに戦争活動の「大動脈」を担ったわけです。

この数年先、米軍の潜水艦による通商破壊作戦が効果を発揮し、資源を運ぶことは出来ず、戦地にも兵隊を運べず沈められていきます。戦場体験者が「ボカチン」と呼ぶ現象です。

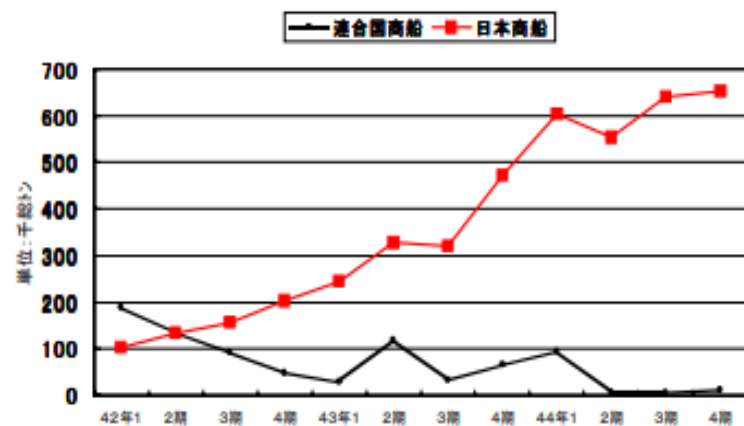
所謂「ロジスティクス=兵站」が破綻し、物資、兵員を展開することも出来ず、日本は敗戦の道を歩みだします。

地図A 南方石油地帯と石油部隊の配置



注：陸軍南方燃料廠 (のちに南方燃料本部と改称) はシンガポールにおかれた。各地の支隊はのちに燃料工廠と改称した。海軍第101燃料廠は当初バリックパバンにおかれ、昭和17年9月にサマリンダに移った。タラカンとセラムに支隊がおかれた。出所：『日本石油百年史』

ロジスティクス：「必要なものを」「必要な時に」「必要な量を」「必要な場所に」補給すること。日本軍は軽視しがちだったため、戦争全体を通して「飢餓」「病死」が多かった。一方、米軍は重要視し、ロジスティクスを考慮して攻撃ルート、作戦が決められた。



【備考】 日本潜水艦による連合国側商船の撃沈データは、JURGEN ROHWER, *DIE U-BOOT-ERFOLGE DER ACHSENMACHTE 1939-1945*, J.FLEHMANN'S VERLAG MUNCHEN, 1968. により、米国潜水艦による日本商船の損害は大井篤『海上護衛戦』(朝日ソノラマ、1983年)による(原出所は「米国戦略爆撃調査団報告」)。

# 病院船も沈む 5分30秒



# 海の藻屑に消えた兵士達

太平洋戦争における輸送作戦で輸送船が敵の攻撃により撃沈されていく中で、船と運命をともにした軍人は、30万人を超えたと推計されています。

南方各地が激戦の中心となっていく中で、満蒙などに温存されていた陸軍の精鋭部隊は、輸送船で占領各地に輸送されていきました。

しかし、その途中で輸送船が撃沈され、敵に一発の銃弾も撃つことなく多くの軍人が海の藻屑と消えていったのでした。



米軍潜水艦ガト一級 通商破壊で活躍した





# ラバウル出航で沈む船 4分30秒



齋藤元雄さん

第51師団衛生隊

昭和18年3月、パラオ集結のためラバウル出航

# ニューギニアで潜水艦の雷撃 3分50秒



斎藤元雄さん

初回沈没で戦死者が多く、歩兵第66連隊に転属

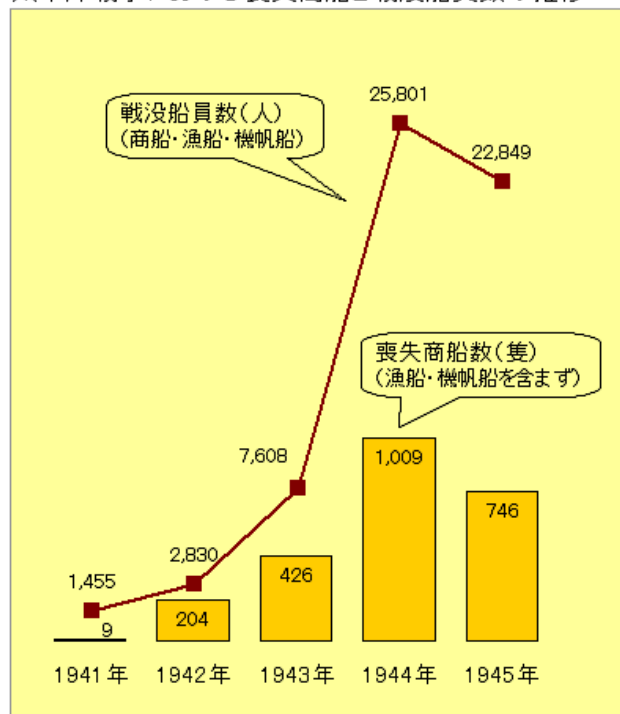
パラオから再度ニューギニアを目指す

# 船員の戦没者

戦没船員の悲惨な実態を伝えるものに、軍人を上回る犠牲といたいけな年少船員の多いことがあげられます

軍人の損耗率は、陸軍20%、海軍16%となっていますが、船員は43%（漁船、機帆船の正確な数字が把握困難なので推計）にもおよんでいます。  
また、戦没船員の年齢別分布は、下表の通りです。  
この背景には、戦時特例によって海員養成所、商船学校、高等商船学校などの卒業年限が大幅に短縮されて乗船したこと、船舶の急激な喪失による船員の犠牲をカバーするため大量の船員養成が行われたこと、などによるものがあります。

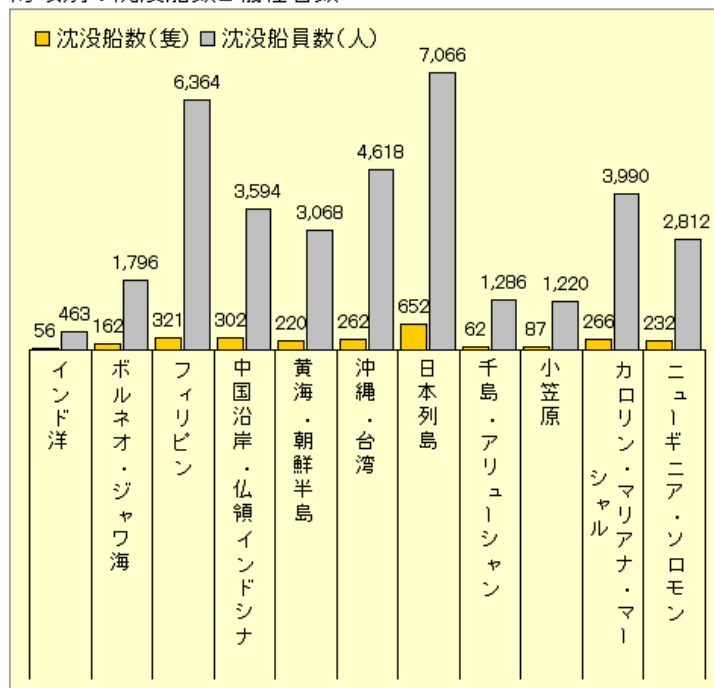
太平洋戦争における喪失商船と戦没船員数の推移



(注) 戦没船員数は暦年。1941年には開戦前(日中戦争の死者)、1945年には終戦後(触雷による死者)を含む。喪失商船数は年度。日本殉職船員顕彰会HPをもとに作成。

(資料) 東京新聞2006.8.13(大図解)

海域別の沈没船数と犠牲者数



(注) 「戦時船舶史」(駒宮真七郎著)、米国海軍公式ホームページのデータに基づき、「戦没した船と海員の資料館」が作成。おおむね200総トン以上の船舶、軍艦を除く。

(資料) 東京新聞2012.7.29(大図解)

戦没船員の年齢別分布

年齢	人数(推計を含む)	比率
14	988	1.63
15	2,868	4.73
16	3,184	5.25
17	3,967	6.54
18	4,208	6.94
19	3,845	6.34
20未満小計	19,060	31.43
20以上30未満	16,610	27.39
30以上40未満	13,196	21.76
40以上50未満	8,539	14.08
50以上	3,238	5.34
合計	60,643	100%



# 船員軍属の戦い① 7分30秒



久我吉男さん

15歳で海員養成所を卒業して辰馬汽船に就職

陸軍徴用船・悠紀丸に乗船

昭和19年9月フィリピン出港後

## 船員軍属の戦い② 3分45秒



船長の退船命令がない限り、絶対に船を離れちゃいけないと教育されているんだから

# 船員軍属の戦い③ 4分



西山勇さん

15歳で海員養成所を卒業して東洋汽船に就職

徴用船・麗洋丸に乗船中

昭和19年2月17日トラック島で被弾



# バシー海峡

太平洋戦争終盤、アメリカは、バシー海峡で潜水艦による通商破壊作戦を大規模に展開しました。

南方への日本の輸送船をこの海域で撃沈し、兵員や物資の輸送を阻止するためです。南方への途上で沈められる日本の輸送船は後を絶たず、やがて同海峡は、“魔の海峡”、“輸送船の墓場”と称されるようになります。

南方へ展開する陸軍兵士の体験で必ずといったほど話題になるこの海峡での戦没者は10万人ともいわれています。

わが国への主な海上輸送路（イメージ）



# 輸送船の様子





# バシー海峡 1分45秒



小野一臣さん

30師団で昭和19年12月、台湾からフィリピンへ



# バシー海峡 せっかくの装備も水の泡 1分10秒





# 太平洋戦場地図





# ダンピール海峡の悲劇 4分

